# 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

| 報　告　番　号 | 甲　第　1273　号 | 氏　　名 | 野　沢　修　平 |
|---|---|---|---|
| 論 文 審 査 担 当 者 | 主　　査　　鷲　塚　伸　介<br>副　　査　　小　泉　知　展・工　穣・小賀　徹 | | |

(論文審査の結果の要旨)

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(obstructive sleep apnea: OSA)は睡眠中に上気道が閉塞し低酸素血症を来す疾患であるが、その病態と睡眠体位には密接な関係がある。一般的に仰臥位では上気道が狭窄しやすく、無呼吸/低呼吸が発生しやすい。側臥位では上気道の狭窄が解除されやすく、無呼吸/低呼吸は発生しにくい。無呼吸/低呼吸の1時間あたりの平均回数であるapnea hypopnea index (AHI) は、睡眠体位によって変動し、仰臥位で高くなりやすく、側臥位で低くなりやすい。しかし、体位によるAHIの変動が大きい患者と、そうではない患者が存在する。前者はpositional patients (PP)、後者はnon-positional patients (NPP)と呼ばれ、両群の臨床的な差異は、これまで多く報告されているが、日本人についての報告は少ないため、今回の検討を行った。さらに、これまでに報告されていないサブ解析を行い、両群の差異をさらに詳しく検証した。

信州大学医学部附属病院において2008年5月から2020年5月の間に終夜睡眠ポリソムノグラフィー(PSG)を施行し、仰臥位、側臥位の睡眠体位がそれぞれ30分以上あったOSA患者237例を対象とした。仰臥位から側臥位への体位変換でAHIが50%未満に低下する患者をPP群(n = 158)、低下しない患者をNPP群(n = 79)に分類し、臨床背景とPSGの項目について比較した。また、サブ解析として、傾向スコアマッチング法を用いて、背景因子である年齢、性差、body mass index (BMI)とAHIを同程度に調整した上で、両群のPSGの項目を比較した。

その結果、野沢は下記の結果を得た。

1．　臨床背景について、PP群では、NPP群と比較して、高齢かつBMIが低値だった。
2．　PSGについて、PP群では、NPP群と比較してAHIが低く、それに伴って、睡眠中の低酸素血症が軽度であった。
3．　傾向スコアマッチング法を用いたサブ解析で、年齢、性差、BMIとAHIを同程度に調整しても、PP群はNPP群よりも睡眠中の低酸素血症が軽度であった。

これらの結果より、日本人のPP群は、NPP群と比較して、高齢かつ肥満度が低く、AHIも軽症であることが分かった。また、臨床背景とAHIに相違がなくても、睡眠中の低酸素血症に違いが生じていることから、睡眠体位のAHIへの影響の強さによって、睡眠中の低酸素血症の重症度が異なることが示唆された。

よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。